

# S・M・C

Shizuoka Medical Communication

## 模擬患者全国大会に参加して

昨年ひき続き9月11日、「第2回 全国模擬患者学研究大会」が、聖路加看護大学で開催されました。今回は模擬患者参加による医学教育及び看護学教育の取り組みや実践についての発表が、ワークショップ形式で行われました。それに先立ち、東京のライフ・プランニングセンター（理事長 日野原重明氏）から講演依頼の電話がありました。発足から現在までの軌跡も含め、SP (Simulated Patient) の養成、SP派遣の実際について、大会で発表してほしいというものでした。この申し入れに、初めは戸惑いましたが、静岡医療コミュニケーション研究会の存在を多くの人に知ってもらう事は、会にとって重要な活動になると考え、講師を引き受ける事にしました。

当日は日野原先生の基調講演に始まり、藤崎和彦先生の講演があり、午後からは医学教育、看



日野原先生を囲んで

護学教育、SPの3つの分科会に分かれました。そのSP分科会（参加者百余名）で第一演者として講演を行いました。

私たちの会の成り立ち、これまでの活動報告、今後の活動の上で考えられる問題点などを報告しました。

なお、私たちのほかにも、日本で初めてのSPとして有名な岡山SP研究会の前田純子さん、東京ライフ・プランニングセンターの石清水山紀子さんの発表があり、この分科会には全国10数組のSP団体が参加していました。

質疑応答では、SPのサポートのために私たちが独自でしている医療面談中の速記録について、思いのほか質問が集中しました。意外な反響に驚くとともに、他の団体の方々の熱意を感じることができました。これらの方々には市民ボランティアとして試行錯誤しながら、それぞれの地域で活動している模擬患者の同志だと思います。あらためて、今後もこのような活動を続けていく気持ちを強くしました。

今年はどうのような大会になるのか判りませんが、また参加したいと思います。なお、当研究会からは14名の会員が参加しました。

(森田)



発表する森田代表

# 「心が病んでいるかもしれないあなたに…」の参加者アンケートから

私たちは今、様々なストレスを受けながら生活しています。ストレスを上手にかかわせない人、側で心配している人、心の健康に関心のある人、そんな方のヒントになればと思い、静岡県立総合病院総合診療科医長の袴田康弘先生に上記の題で講演をお願いしました。

当日は、開演30分前から60余名の方がご来場くださり、講演中は熱心にメモを取る姿が多数見受けられました。

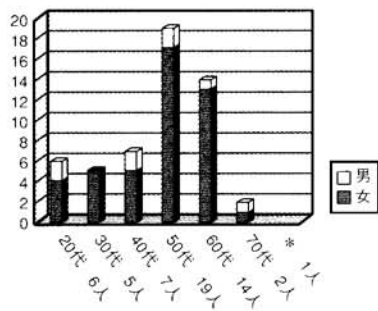
最後の質問コーナーでは、多くの方が現実的で身に迫る質問をされ、先生にも一問ずつ丁寧に答えて頂きました。なお、会場の都合上、十分な時間が取れなかったことは本当に残念でした。

私たちのアンケートには57名の方が答えて下さいました。全てではありませんが、参加者の背景、ご感想等を以下にまとめてみました。

## 1) 参加者背景

性別、年齢別では予想どおり50代60代の女性参加者が圧倒的でした。(図1)

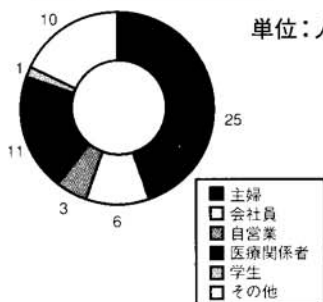
参加者の性別と年齢 (図1)



職業の質問(図2)で主婦が25名、だったのは図1で、

40代から70代の女性参加者の数から考えて意外でした。心の問題は家庭内だけでなく、職場でも見受けられる普通の事になってきているのでしょ

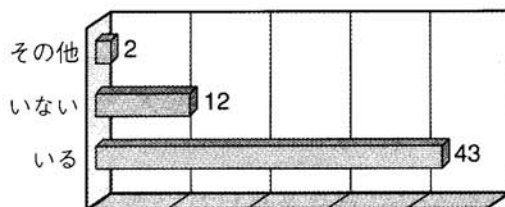
参加者職業 (図2)



うか。20代の6名のなかに、新聞やチラシを見て参加して下さった方がいた事、少ないながら男性の参加者が、20代から70代まで幅広い層であった事は大変うれしい事でした。

## 2) 心の健康についての関心と講演

身近に心が病んでいる人がいますか (図3)



身近に心が病んでいる人がいると答えた参加者が43名ありました。(図3)

この数字からも、うつ病など心の病にかかる人が増えている、と考えることができるのでしょうか。

アンケートの中には「傍でみていてつらい」「接し方に「感う」等、病んでいる人と毎日接している様子がかがえるものがありました。

袴田先生のお話は大変わかり易く具体的で、感想の記述にも、「全くの素人の私が興味深く聞かせていただく事ができました」「うつのとらえ方が判りました」

「接し方がよくわかりました」などがありました。

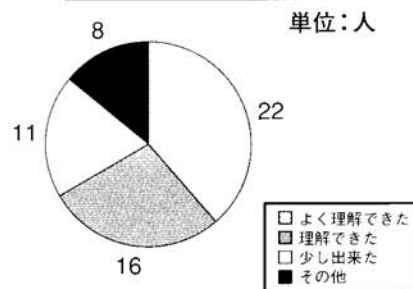
それは(図4)の講演内容の質問に「よく理解できた」「理解できた」「理解できた」を合

わせると半数以上の38名の数字にも表されていると思います。

今回の講演を通じ、体の健康を考える様に、心の健康も私たちの身近にある事、心の健康を害する事は決して特殊ではない事がよく判りました。

最後に「講演を聞いて本当に良かった」というアンケートの中にあつた記述で終わらせていただきます。

講演内容 (図4)



## 藤崎先生を迎えての SP研修会

11月3日、藤崎先生をお迎えして、静岡医療コミュニケーション研究会のSP研修会を実施しました。参加した会員は十数名で、午前10時から行われました。研修内容は医師2名と薬剤師1名、看護師2名のセッションを12分間行い、その後、医療者の感想、SPのフィードバック、ファシリテータのフィードバックと進み、最後に藤崎先生が総括として助言、提言を述べられるというものでした。

私は、SPとしてのデビューを翌月に控え、2度目の練習セッションということで、まずは慣れることを優先に考えていました。諸先輩SPの皆さん、藤崎先生の前ということで、少し緊張してセッションに望みましたが、セッションに入ってから、集中してできたと思います。

初めてのシナリオは、高血圧から心不全を起こしてしまった患者役で、患者の生活背景を考慮して医師が早期の入院を促す設定です。ところが、実際のセッションの中では、通院治療を勧められるという、異なる方向に向いてしまったのです。少しあわてて、自分から即入院の方向に誘導したほうが良いのか非常に迷いましたが、そのようなことはしませんでした。SPのフィードバックでも、その迷ったことをお話したのですが、そのセッションの日時や相手、シナリオにより、セッション内容も、10回やれば10回の異なる会話が生まれることを知りました。

藤崎先生から、最低限の病気に対する知識は必要であり、SPが誘導することなく、自然な流れの中で会話を展開して行くことが大切であることを学びました。

私は、当研究会では数少ない男性の一人ですが、SPをやりながら女性の受け止め方と男性の受け止め方に少し差が現れるのではないかと、藤崎先生がおっしゃっていましたが、具体的に違いを感じたことはありません。SPはあくまで、医療従事者と、患者または患者家族が、より良いコミュニケーションができるように、手助けをするのが目的であり、患者を演じることが目的ではないので、そこをわきまえたフィードバックを心がけたいと思います。(杉浦)

私が勤務している病院での接遇研修でSMCの活動を知り、日頃から医療者と患者様のコミュニケーションのあり方について、医療者は振り返る必要があると感じていたため、すぐに研究会の会員となりました。

毎月の定例会や練習会に参加して、模擬患者について学びました。この日の研修会では、先輩たちのように模擬患者という設定から出て、きちんとフィードバックできるかといった不安を抱えながら、先輩たちの前で模擬患者を演じました。

最初は不安を抱えていたものの、先輩の助言、そして藤崎先生のアドバイスを受けることで、不安や疑問を解消することができ、今は本番デビューをドキドキしながら待っています。

(増田)



藤崎先生とSMCの仲間

# 平成16年度私たちの活動

月 日	活 動 内 容
16年 4月18日	平成16年度総会
4月27日	薬剤部研修会へのファシリテータ・SPの派遣(磐田市立総合病院)
5月	広報紙S・M・C第6号発行
5月11日	医学部学生セミナーへのSPの派遣(浜松医科大学)
5月20日	薬学部セミナーへのファシリテータ・SPの派遣(静岡県立大学)
5月25日	医学部学生セミナーへのSPの派遣(浜松医科大学)
6月8日	医学部学生セミナーへのSPの派遣(浜松医科大学)
6月26日	講演会「心が病んでいるかもしれないあなたに・・・」を開催
7月3日	看護職員研修へのファシリテータ・SPの派遣(富士宮市立病院)
7月6日	看護職員研修へのSPの派遣(浜松医科大学医学部附属病院)
	看護職員の接遇研修へのファシリテータ・SPの派遣(掛川市立総合病院)
7月25日	臨床研修医試験へのSPの派遣(藤枝市立総合病院)
8月5日～7日	第13回医学教育セミナーへの参加(岐阜大学医学部)
9月4日	臨床研修医試験へのSPの派遣(藤枝市立総合病院)
9月11日	第2回全国模擬患者学研究大会への参加(聖路加看護大学)
9月18日	医師研修会へのSPの派遣(藤枝市立総合病院)
10月9日	医師研修会へのSPの派遣(藤枝市立総合病院)
10月25日	看護職員研修へのSP派遣(浜松医科大学医学部附属病院)
10月29日	看護職員の接遇研修へのSP派遣(静岡県立総合病院)
11月3日	SP研修会(講師:岐阜大学 藤崎先生)
11月16日	治験セミナーへのSP派遣(浜松医科大学医学部附属病院)
11月27日	医師研修会へのSPの派遣(藤枝市立総合病院)
12月3日	看護職員の接遇研修へのSP派遣(静岡県立総合病院)
17年 2月19日	浜松医科大学OSCEへのSPの派遣
2月26日	研修医セミナーへのファシリテータ・SPの派遣(富士宮市立病院)
3月6日	医療コミュニケーション研修へのSPの派遣(静岡県病院薬剤師会)
3月19日	治験セミナーへのSP派遣(ファルマバレーセンター)

その他月1回の定例会を開いています。

この会に興味のある方は下記事務所までご連絡ください

発行

静岡医療コミュニケーション研究会事務所 代表 森田 みつ子

〒420-0882 静岡市葵区安東1-22-25 TEL・FAX 054-248-0348

E-mail mrtmtk2000@hotmail.com

静岡医療コミュニケーション研究会 HP: <http://www.geocities.jp/smc22jp/>